

むすびめ通信

Musubime works for the better society



湯本沙友里 ニュースレター

Vol.008 2019年 11月号



2019年のエチオピア滞在は4月～8月上旬までと、当初の予定より約1ヵ月延長し、新しい繋がりや現地の方々のご協力の元で働きを前進させることができました。帰国後も活動のまとめや報告会、フリーランスとして行う別件の仕事の処理等がありましたため、この通信の発行がいつもより大幅に遅れてしまいお詫びいたします。いつもこの働きをご理解くださり、暖かく心を寄せてくださっています皆さまに、心からの感謝を申し上げます。

今回の通信では、4月～8月の現地滞在中の働きを中心にご報告いたします。

エチオピア活動①(事業に向けて) 接客サービス従業員の育成トレーニング・プロジェクト

昨年スタートしたこのプロジェクトですが、今回は、外国人も多く利用するホテル(エチオピア人経営)からの申し込みを受け、約60名の従業員に対し(各部署のマネージャ、受付ロビー、レストラン・カフェ担当者)講義と実施訓練を合わせた1ヵ月間のトレーニングを行うことができました。長年の外国からの援助により様々なトレーニングを無料で享受する機会に慣れてしまった人々にとっては、人材育成や技術の習得に自己出費することに、個人でも組織でも意欲的でなく、結果として主体性が損なわれてしまいます。(援助の必要を抱えている人がいることも事実です)。私が企業へ営業活動している中でも、技術の無料提供を期待される場面がありましたが、受ける側も提供する側も互いに責任を持ち、事業を持続可能な仕組みにすることに初期段階から妥協したくないという思いから、引受先は選ぶようにしています。そのため受注までは毎回困難を極めますが、理解を示してくださる企業とは無理のない関係が築けると感じています。



トレーニングの様子

今回の経験からは、職業人材を現場で育成するには、「個人の成長」と「組織の仕組改善」という2つの要素に対する同時のアプローチを長期で行う必要があるという気付きがありました。これまで前者にのみ焦点を置いたトレーニング内容であったため、2つ目の「仕組」改善にどのように取り組むかが今後の課題です。ホテルでは好評を頂きつつも、私個人の知識と経験だけでは担いきれないことも痛感し、エチオピアと日本での双方において、具体的に協働し合えるネットワークやチームづくりの必要性を思われています。



受講したホテルのスタッフ(約60名に向けて)
(修了証書授与式)

エチオピアでの協力関係

現段階でも、この働きを進めるにあたって、生活面でも仕事面でも、エチオピアで持つ協力関係の中において様々な助けを頂いていることは大変感謝な事です。社会に対する様々な問題意識を持って計画を練り、働きを実行・前進させ、さらなる課題の発見と解決に向けて取り組む彼らの姿勢から、「失敗を恐れず、諦めずに取り組み続ける」大切さを教えられます。現地を良く知り、様々な分野(ビジネス、教育、支援、医療、教会など)において奮闘されている方々から話を伺い、その取組から教えて頂く中で、私にできる貢献も毎回模索・改善しています。仕事を共同するチームの結成を具体的に視野に入れながら、今後も現地の方々との対等な関係の元、エチオピア活動を進めたいと望んでいます。



エチオピア活動②（支援として登別市と協働） 小学校（ディスティニー・アカデミー）での絵画授業

毎年登別市では、世界食料デー登別大会の時期に合わせて、市内で児童画展を開催するのが恒例になっており、エチオピアの子どもたちが描いた児童画を、現地よりお送りしています。エチオピアでは絵画道具が輸入物ゆえに、日本よりも高価なため、公立や一般的な私立の学校では絵画授業の頻度が多くないと聞きました。画材を送るだけでなく、使い方や表現の仕方を教えることで子どもたちの創造性の育成と、ものづくりの楽しさを知る機会に少しでも貢献出来たらとの願いから、今回から授業も開催することにしました。

予想以上に好評をいただき、毎度の授業を心待ちにしている子どもたちの大喜びする姿や、熱心に学ぼうとする姿勢から私自身が励ましを受けましたし、校長先生からも「自ら考えて自由な発想を育み、一人一人異なることを良しとするアートの価値を身に付ける機会を与えてくれてありがとう」と仰っていただき感謝でした。子どもたちには、自身や身の回りのことを良く見て考えて自由に表現してみることや、プレゼンすること、友達の作品の良い部分を評価すること、などを意識して伝えました。学校に行きたいというモチベーションや勉強の合間の良い息抜きにもなったようです。



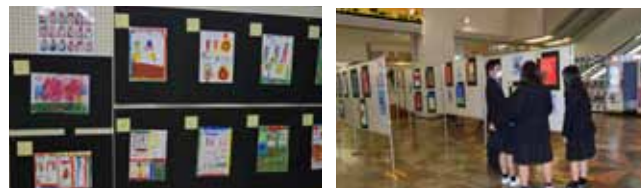
協働関係にあるこちらの幼稚園・小学校では、外部ボランティア教師の受入れを歓迎しており、専門性を持つ方の具体的な取組は大きな助けになります。ただ、私も今回授業を行わせていただきましたが、絵画指導を専門的に学んだわけではありません。幼少期から絵画・書道など美術系の教室に通わせてもらったことで小・中学時にコンクールで受賞経験があった経験や、現在のウェブデザイナーとしての仕事の引出し、また専門的に学んだ友人たちからのアドバイスなど、

経験を活かしつつ精一杯かき集めた記憶やアイデアで指導に当たらせていただきました。日本には様々な経験をする機会があるので「できること」や「スキル」を持つ人が多いのではと感じるのですが、私自身エチオピアに来るまで、これくらいでは役に立ってないのでは？必要とされているのだろうか？とってしまうことだらけでした。今も過程ではありますが、誰か(国内外問わず)の喜びを願い、その助けになりたいと一歩踏み出すと、情報やアイデアが得られ、何らかの形で貢献に繋がり、知見と喜びの輪が広がっていくことを経験しています。埋もれていた興味関心や、得ていた自信などを振返ってみても、何か発見があるかもしれません。エチオピアに居ると、そのような方法で挑戦したことで、周りの人々と喜びを共有している方と会うことが度々あります。

自分にも何かできることがあるだろうか、と考えていらっしゃる方、短期間でも現地でのボランティア活動にご興味がある方がいらっしゃいましたら、ぜひご連絡ください。



授業で描いてもらった絵画はすべて登別市へお届けし、市内の様々な場所にて展示されています。（10月に市を訪れました。次号でご報告いたします）。運営側だけでなく、毎年恒例のこの時期を楽しみにしておられる市民の方々が大勢いらっしゃるそうです。中高生による世界に目を向けた積極的な学びも進んでいます。一方的ではなく私たちがエチオピアから学びとり助け合う相互的な関わり合いを、今後も学び続けたいと願っています。



今回は帰国後の日本での活動を中心にご報告いたします。

連絡先

湯本 沙友里 Sayuri Yumoto

Email : sayuri@karashi.net

支援のための募金・献金方法

経済的支援をもってご協力くださる方はお手数ですが右記の口座にお振込みください。報告はニュースレターにて随時お知らせしますので配信ご希望の方はご連絡ください。ご支援を心より感謝いたします。

①ゆうちょ振替口座 口座番号：00180-0-300201
名義：FVI

★通信欄に「湯本指定」とご記入ください。

②ゆうちょ振替口座 口座番号：00830-9-137685
名義：湯本沙友里

他行等から 店名：〇八九店 当座 0137685

支援金はどちらの口座も同様に、派遣に関わる経費、活動費に充てられます。FVI名義は、湯本がサブスタッフとして関わる非営利団体「声なき者の友」の輪を通して税理士より監査を受け、年次報告いたします。ウェブサイト(karashi.net)から閲覧可能です。